

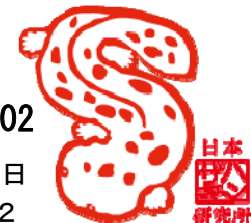
ハンザキ研日誌 2014年6月

- 1日 岡田副理事長他夜間調査で20<sup>キ</sup>幼生捕獲、推定年齢4歳
- 3日 兵庫県養父市立建屋小学校1・2年生13名、引率4名で見学に
- 5日 環境保全活動で県知事表彰を受ける
- 7日 ボランティア作業(防鳥ネットの整備完了)
- 9日 キノコ定期定点調査(横山了爾先生他) 今年発生状態が良くない
- 12日 ・朝来市長から知事表彰について祝電  
・構内ヘシカの侵入跡あり。金網を持ち上げて入ったようだ
- 13日 鳥取県八頭土木整備事務所にて千代川水系の調査委託打ち合わせ
- 15日 ・野鳥標識調査(脇坂英弥先生他) カワセミがネットに掛り、数時間後に同じ個体が再捕獲、カワヨシノボリをくわえていた  
・キビタキの死体収容、校舎のガラス窓に衝突
- 16日 国交省豊岡河川国道事務所より来所(北近畿自動車道関連)
- 19日 大阪府安威川ダム建設事務所より来所(安威川ダム建設関連)
- 21日 ・公開見学会2組4人  
・ボランティア作業8名参加(シカ止めネットの補強)  
・ヤマシャクヤクの苗受領
- 23日 重さ50キロほどの鉄板の蓋を両膝で受けて負傷
- 27日 ・岡田副理事長他夜間調査  
・環境省近畿地方環境事務所野生生物課横田寿男課長の送別会
- 28日 ・NPO法人地域再生研究センターの総会出席(県民会館にて)  
・日本工科大学校実習(岡田副理事長)学生6名

ハンザキ所長のツブヤ記録

またまた、大怪我をしてしまった。ハンザキ・プール周囲の整備中に50キロ以上ある縞鋼板の蓋を持ち上げようとして、腕力が限界を超えたために放してしまったのだ。両大腿部で受け止めてしまうことになった。歩いても痛みは無いので骨の方は無事だ。主に右足の方で受けたようで、打撲と皮下出血、擦過傷で悲鳴を上げた。写真を撮る(何でも記録が大切です)時に気付いたのだが、右足のふくらはぎにも大きな皮下出血があった。脚が捻れたことによって裏側にも打撲があったのだろう。年寄りの冷や水と笑われたが、なかなかボランティアだけでは整備しきれないのだ。暇を見つけてはポツポツと作業を進めていかねばならないのです。右膝小僧の上の筋肉部分に拳大のタンコブができて痛む。変色はしていないので内出血は無いようだが、その後40日程でようやく痛まなくなった。肉体労働すると、すぐにエネルギーが切れてしまうようになった。無理はできないと思うが。

# 日本ハンザキ研究所ニュース 2014(6) : 通巻 No. 102



発行2014年6月30日  
〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292  
Tel/Fax: 079-679-2939  
E-mail: info@hanzaki.net  
URL: http://www.hanzaki.net  
NPO法人 日本ハンザキ研究所 栃本 武良

## 環境保全功労知事表彰

6月5日は環境の日になっており、毎年この日に環境の集いが開催されている。このたび、図らずも環境保全功労団体として、当法人が兵庫県知事表彰を受けた。これは嬉しいことでハンザキ研がNPO法人となって6年目、ハンザキ研を立ち上げて10年目になるが外部からの評価を頂けるようになってきたなという感慨がある。どなたかが我々の活動を見ていて推薦して下さい、審査もパスしたということが言えるだろう。4個人と10団体の表彰式が県公館で行われたが、篠山市でクリンソウの大群落を見守っている旧知の樋口清一先生のお顔もあった。その他に県猟友会の篠山支部長さんもおられたが、有害鳥獣の駆除によって、環境を守る活動によるものだ。兵庫県はシカの生息数を15万頭と推定し、年間3万5千頭の駆除を目標にしているそうである。農作物の被害が大きかったが、金網の囲いと共に大幅に被害低減となったそうである。



井戸兵庫県知事からの表彰状

ハンザキ研の活動は、ハンザキの生態調査やこれを取り巻く動植物相の調査記録、環境教育活動などが主たるものである。ハンザキだけを守ればいいのかと言われることもあるが、ハンザキは河川生態系の頂点に位置する動物である。この大型動物が多数生きていける河川環境は良好な物と言っていいだろう。1975年から始めた生態調査も40年目となった。生野町の生野ダムから源流の黒川ダムまでの間、約10<sup>キ</sup>の市川本流と10本の支流をあわせた調査水域は25<sup>キ</sup>ほどである。この間で約1,600個体のハンザキを個体識別して追跡中である。この内、900個体以上に永久標識であるマイクロチップの挿入ができた。そして、野生ハンザキを30年以上追いかけて記録できた8個体があり、最長は37年5か月となっている。自然環境の中での記録であり、今後は若い後継者に託したいと考えている。

### ミサゴの幼鳥

魚食性の猛禽類として知られています。英語名のオスプレイは米軍の輸送機として知られていますが、ミサゴが捕食するときに直角に近いダイビングを見せるところからの命名でしょう。生野の街に食料の調達に出かけ、帰りは主食のビールと共に小椋酒店主に配達していただいています。生野ダムで作られた銀山湖畔を走っていた時に、車が近づくと、次の電柱へ頼りなくふわりふわりと逃げていく大きな鳥がいました。後日、鳥の脇坂先生にミサゴであることを教えて頂きました。



写真1 ミサゴの幼鳥

### ハヤブサの摂餌

ニワトリを太い脚で押さえて羽をむしって食べている写真が小椋さんの友人から届けられました。これも銀山湖畔での撮影だそうで、脇坂先生に教えて頂きハヤブサであるとのことでした。スタッフの白瀧英雄さんがこれを見て、いつの写真かと尋ねられました。昨年飼った鳥がやられたのだそうですが、写真は2011年のことなので違ったようですが、鶏に目を付けているハヤブサがいるようです。



写真2 ニワトリを襲ったハヤブサ

### カワセミの標識調査

ハンザキ研横の市川に掛るハンザキ橋の下を猛スピードで通過するのがカワセミで、橋の上空を飛ぶのはヤマセミです。以前はペアで見られたのですが現在は共に独り身になったまま数年が過ぎています。脇坂先生の標識調査でカワセミがかかりました。標識を付けて放鳥して数時間後に、同じ個体が網に掛ったのです。そして、写真のようにカワヨシノボリという小魚をくわえていたそうです。川底の石の表面で活動するこんなに小さな魚を捕食するには感心するばかりでした。



写真3 標識調査で捕まったカワセミ

### 小鳥の標識調査

脇坂先生は環境省の許可をもらって、カスミ網で小鳥を捕獲しては足輪を付けて放す根気のある研究をしています。今までの調査ではハンザキ研の近くにはカワガラスが多くみられるようです。網に掛った鳥の体長などと共に体重も測定しますが、この写真のように三角錐型の紙製の筒にいれると目隠しになって鳥はおとなしくなるのだそうです。



写真4 カワセミの体重測定

### キビタキの落鳥

校舎の窓の下に鮮やかな黄色の羽をもった小鳥が落ちていました。これまでも、トラツグミやセキレイ類、カワセミなど多くの小鳥の死体を拾っています。中には脳震盪を起こしただけでしばらくしてから飛び去ったものもありますが、小鳥たちにとってはガラスとは厄介な人工物になっているようです。



写真5 ガラス窓に当たって落ちたキビタキ

### ハンザキの吐き出した餌?

ハンザキの測定をしているとせつかく捕まえた獲物を吐き出すことが時々あります。この写真は全長 685 mm の個体が吐き出した小魚と煙草の吸殻です。河川の源流域に近い場所でもポイ捨てする人が多いのでしょうか。沖合の黒潮が流れる潮目には流れ藻の代わりに大量のプラスチック製品が帯を作っています。河川から流れてきたゴミの集まりなのですが動物たちは選別できずに誤飲することで死んでいってしまうのでしょうか。



写真6 全長 685 mm のハンザキが吐き出した胃内容物